

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

22. 職人魂がインキの効果を最大限に「藤和」

パウダーレスインキ「キレイナ」の上市は(株)藤和(東京都三鷹市、後藤範行社長、従業員50人)の協力がなくてはなかつただろう。メーカーであるT&K TOKAの技術陣は、藤和の印刷に対する熱意と技術力の高さに敬意を表している。同社の仕事は、株主総会の資料、教科書や参考書、歴史書、医学書、イラスト集などの書籍のほか、折込みチラシ、保険のパンフレットなど、あらゆる出版印刷と商業印刷を手がける。

顧客の3分の2は同業の印刷会社で、校正刷りが、平台校正もあれば、各社出力のデジタルブローフ、オフ輪やUVの印刷物などさまざまな形で提出される。用紙も多様なものを指定されたり、400%の掛け合わせベタにしてほしいとデザイナーから要求されることもある。同社には油性オフセット印刷機しかないのだが、UV印刷同等の短納期を要求されることも少なくない。

難しい仕事を任されるのは、それだけ同社の技術が同業含む顧客に信頼されている証だ。顧客のさまざまな要望に応えるため、同社は常に印刷品質の向上と効率改善を心がけている。油性オフセット印刷におけるパウダー散布量の削減もその一環だ。パウダーのボタ落ちなど、パウダーに起因



戸田工場でキレイナを使用しはじめた菊全判8色両面兼用印刷機。現在、ノウハウを取得中である

する印刷トラブルを未然に防ぐのはもちろん、パウダー量を減らすことで印刷機の清掃時間の短縮や、機械の劣化防止となり、印刷工場全体の環境改善につながっている。

相乗効果で期待以上の成果を生む

同社は、本社のある三鷹工場と埼玉の戸田工場を生産拠点としている。キレイナを最初に導入したのは三鷹工場だった。2014年に同インキが上市される前、まだ開発中で製品名も決まっていなかったころ、メーカーからインキのコンセプトを聞いた。

「三鷹工場にある4台の油性印刷機の老朽化に伴い、順次入れ替えを考えていました。はじめは、年々厳しくなる短納期対応からUV印刷機も検討していたのですが、T&K TOKAさんからパウダーレスインキの話聞き、「外的エネルギーに頼らない、既存設備の活用、コストをかけない」という点が、「おもしろそう、やってみたい」と思いました」(伊藤英隆工場長)。

すでに高い技術をもっている会社だからこそ、さらなる新技術を追求することにも積極的だ。同社はインキメーカー、そしてブランケットやローラー、エッチ液のメーカーと連携してキレイナをテストし、開発・改良に協力した。

開発初期のころは、インキの乾燥が速すぎて1時間に1回ツボをかき混ぜたり、インキ濃度が安定しないなど試行錯誤が繰り返されていたが、藤和の妥協のない意見を取り入れてメーカーが何度もインキを試作し、キレイナを完成させた。

「インキが本来もつ性能や効果を最大限に引き

出すには、一つだけではだめ。インキ、版、ブランケット、エッチ液、これらのマッチングと相乗効果で各メーカーが思っていた以上の成果が出る。これを引き出せるか、導き出せるかが印刷会社の腕(技術)です」(伊藤工場長)。

速さをさらなる武器に

同社は以前よりすでに湿し水を絞る無処理版による乾燥を速くさせる印刷を実践してきたが、キレイナの乾燥時間はさらに速いという。現在ではキレイナを使うと、5000~1万通しの仕事であれば、昼に入稿された原稿を午後に印刷して夕方出荷することもできるそうだ。品質面でも、印刷物の光沢感(とくにベタ部分)や、表面加工の仕上がり、PODによる追い刷りなど、安定してきれいな印刷に仕上がるメリットもあった。

三鷹工場では4台の印刷機でキレイナを使い始めて、パウダーの使用量を70%削減できた。パウダー量が減ることで、清掃時間の短縮(従来比34%減)、そして印刷工場の環境改善に役立った。現在、仕事によってはパウダー散布量ゼロで印刷するものもある。伊藤工場長は、ゆくゆくはパウダー散布量をすべてゼロにしたいと語る。そのために、キレイナを使用した仕事の内容(日付、用紙の銘柄や通し枚数、パウダー散布量など)を記録している。それらを分析し、キレイナをより

良く使いこなす方法を常に研究しているのだ。

ポイントはブランケット

すでに三鷹工場でのキレイナが軌道に乗ったため、同社は2017年2月、戸田工場でもキレイナを導入した。2台ある菊全判8色両面兼用印刷機のうち、ブランケットの調達の関係で、まずは1台のみでキレイナを使用中である。三鷹工場とは条件(両面機、菊全サイズ、給水機構など)が異なることもあり、戸田工場のオペレーターは現在、ノウハウを習得しているところだ。エアー制御や、用紙によってどのようにインキを使うかの見極めが難しいという。

なお伊藤工場長によれば、キレイナを導入する際の最大のポイントはブランケットだそうだ。ヘタリが少なく、インキの転移がよいのはどのブランケットにも求められるが、キレイナの場合はインキ中の特殊ビーズもよく転移する理想のブランケットがあれば、キレイナの効果を最大限に発揮できる。藤和はブランケットメーカーと共に理想のブランケットを開発した。

前述のように、新技術に意欲的に挑む同社。キレイナの導入について語る伊藤工場長の言葉からは、同社の自信と、その現状に満足せず顧客のためにさらなる高みを目指そうとする職人魂が見えた。(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワンキレイナ」

BESTONE
KIREINA®

2016年度グッドデザイン賞を受賞しました。

GOOD DESIGN
AWARD 2016

T&K TOKA®

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577